

# 北海道・厚真町グリーン・ツーリズムモニターツアーに参加して

地球環境自然学講座 松尾京子

2017年7月3日（月）～8日（土）、北海道勇払郡厚真町観光協会主催の「北海道・厚真町グリーン・ツーリズムモニターツアー」に参加し、アポイ岳、樽前山に登頂、普通の山行ではなかなか行けない北海道大学苫小牧研究林の観察やウトナイ湖鳥獣保護センター見学、ウトナイ湖サンクチュアリ散策、厚真町特産のハスカップの採集とジャムづくりなど 充実した4日間を過ごしました。



## ・7月3日（月）

8:30 新千歳空港着、お迎えの車で厚真町へ（空港から車で約30分）。途中のノーザンホースパークで美味しい昼食後、ハスカップ農場でハスカップ（注）収穫、ジャムづくり、夕食は厚真町特産のジンギスカン BBQ でした。

（注）ハスカップは北海道に自生する落葉低木の植物でスイカズラ科の高さ1.5m

ぐらいの低木。和名は、「クロミノウグイスカグラ」といい「枝状の上にたくさんなるもの」を意味し、アイヌ語のハシカップに由来するという。アイヌの人々からは「不老長寿の実」や「幻の果実」と呼ばれてきました。



## ・7月4日（火）

8:00 宿舎・こぶしの湯出発、広い厚真町内見学、移住促進事業で広々とした緑豊かな敷地に別荘風の素敵な住宅が建ち、道内、道外から移住した方々が生活していました。

短期間滞在の「ちょっと暮らし」住宅もありました。町営の大沼キャンプ場は、1週間ぐらいここでテント生活したいと思ったほど素晴らしいキャンプ場でした。アニメに登場しそうな浜厚真の駅舎が可愛かったです。現在も便数は少ないが列車が通っています。

その後、ウトナイ湖・鳥獣保護センターを見学し豊富な展示内容に驚き、ウトナイ湖サンクチュアリでオオハクチョウ、コハクチョウ、コブハクチョウ、マガモ、などが見られ、野鳥観察に最高の場所だと思いました。

午後は北海道大学苫小牧研究林を散策、ミズナラ、ナナカマド、エゾマツ等の大木がしげり、ツルアジサイ、オオカメノキ、フタリシズカなど白い花が涼しげに咲いていました。レモン色のタモギタケ、色鮮やかなベニタケ科のきのこが群生していました。



浜厚真駅舎





## ・7月5日（水）

6：00 こぶしの湯出発、9：00 登山開始、11：50 アポイ岳（810.2m）登頂、14：40 下山

アポイ岳はカンラン岩の山で地質学的に貴重で登山口に立派なジオパークセンターがあり、日高山脈は、ユーラシアプレートと北米プレートがぶつかってできたことや、八方尾根の蛇紋岩はカンラン岩の一種だということがわかり面白かったです。アポイ岳も八方尾根と同様固有種が多く、アポイハハコ、アポイアズマギク、アポイキンバイ、アポイゼキショウ、アポイシモツケ、などが見られましたが、期待していたヒダカソウとアポイマンテマは見ることはできませんでした。襟裳岬が近くに見えました。



## ・7月6日（木）

6：00 こぶしの湯出発、7：30 樽前山7合目登山口から登山開始、西山（993.9m）、932峰を經由して、風不死岳への縦走路途中からトラバース路に入り7合目登山口に下山。タルマエソウ（イワブクロ）が至る所に群生し、火山礫の山肌を淡い紫色で彩っていました、エゾツガザクラ、ウコンウツギ、イソツツジも群生して花の百名山の名に恥じぬ美しさでした。

快晴の空の下、北に支笏湖、南に太平洋が眺められる最高の展望でした！ 下山後、透明度の高いブルーの水をたたえた支笏湖周辺を散策、支笏湖から石狩川にそそぐ千歳川の美しさに感激、次回はずひこの川をカヌーで下りたいと思いました。



おわり